

# 公開授業研究協議を通して見る和泉支援 授業スタンダード 野上先生版

## 1. 安心できる教室環境

- ・無駄がなく、TVが見やすい。
- ・子どもたちが気になるものを減らす
- ・慣れた教室（授業場所を固定する）で、慣れた座席配置だと落ち着いて取り組める。
- ・端に座席を配置するなど、子どもの実態に配慮した座席。
- ・自分で机を動かす座席配置や聴覚過敏対策のイヤーマフなど、自分で心地よい環境を見つけ出すことも必要ではないか。
- ・生徒同士の相性を考えてチーム分けをしている。
- ・生徒に伝わる安心感
- ・就労に向けて、あえて配慮しない場面の設定や支援を減らしていく（しすぎない）ことも必要ではないか。
- ・先を見越した環境設定も大事（生徒にとって気になるスマホが机上にあるなども）。
- ・質問するタイミングなど、いつ、なにをするかを伝えておくことで安心につながる。
- ・就労という目標があるから、生徒たちも就労に向けた授業という意識が生まれ、静かに勉強できていた。

## 2. 分かりやすい授業

- ・テレビがあると見通しを持ちやすい。
- ・聴覚的な情報で授業をすることで、将来の就労に向けての練習になっていた。
- ・実態に合ったワークシートがあって準備が整っていた。
- ・質問のできる環境がいい。質問できる雰囲気があるから、質問できる人が増えている。
- ・（野上 T の授業での）課題がなかなか難しい（障がいがあることのコМПレックス（自分はできない、イジメ）だったり）をたくさん感じて生きてきた子たちにとって短所を見つけるのはすごく難しい。その短所が長所にも変わるということを今後の授業で子どもたちが分かってもらえればいいなと思った。
- ・課題が難しいと感じた。障がいのある子たちは、他の場所（地域の学校など）で傷ついてきたので、自分を表出するのが苦手な子が多い。内容が難しいと感じていたが、前回の復習もありできていた。
- ・ワークシートの見本や具体例を示す。
- ・画面表示に、予定（授業の流れ）や今何をするのかが映されていてわかりやすかった。
- ・ゴールを明確に伝える。
- ・集中がもつように1つの作業を短時間に設定する。
- ・やる、休むをメリハリつける。
- ・しないことで生徒の主体性を引き出す。
- ・やったことに対する評価を伝える。
- ・シンボル（動物のポーズなど）をつくり、わかりやすくイメージさせる。

### 3. 伝わる教員の発信

- ・声の大きさ、発音がはっきりしていて聞き取りやすいよう意識している。
- ・大切な部分は繰り返し伝える。
- ・発信するときは生徒が納得する言葉がけを意識している。
- ・「ワークシート見たらいいよ」などサポートの声かけが適切だった。
- ・発表する理由も言われていたので納得して発表することができていた。
- ・「あ〜」や「う〜」、「わかった」「がんばれ」など不必要なことが書けはしない。しかし語彙や単語は増やしてほしいので話しかける機会は多くする。
- ・聞き取りやすい声、大切な部分は繰り返す。
- ・必要以上に説明しすぎない。
- ・正しい日本語を意識している。
- ・授業の初めとさいごに「今なにをしているのかを確認している」→それが知識につながる
- ・必要なところだけ伝える。
- ・小1では、言葉がけだけでダメ、動きを伴うようにしている。1つの課題ができればほめるようにしている。
- ・小5ではICTを活用し、子どもの注目を集めるようにしている。絵本もKeynoteで編集してTVに映し効果をつけている。授業の説明もKeynoteで作成している。

### 4. 協力できるチーム

- ・学年教員で授業内容や生徒の学習状況を確認しているのが伝わってきた。
- ・略案で情報を共有している。
- ・サブ主担関係なく「今子どもたちに何が必要か」を考えている。
- ・サブ主担で役割分担をしている。
- ・シミュレーションをして、ねらいや頑張りポイントを共有している。
- ・生徒ごとの授業の狙いを確認している。
- ・サブの場合、主担者の邪魔にならないよう必要最低限の支援を意識している。
- ・主担者の場合、生徒に付いているサブ教員に任せられる部分は任せるようにしている。
- ・担任とも情報共有している。
- ・事前に一人ずつ課題を準備している。
- ・学年としてのチームワークを大事にしている。お互いの授業を理解しあうようにしている。

# 公開授業研究協議を通して見る和泉支援 授業スタンダード 高木先生版

## 1. 安心できる教室環境

- ・危ないものをどかす。触ってはいけないものは置かない。
- ・掲示物をできるだけ減らす。
- ・棚に置くもの、上げるもの全て白いカゴや布でおおう。
- ・黒板前の教員机の上のものを全てよける。物をもとから置かないようにしてもらえれば・・・。
- ・車椅子の生徒がいる場合、動線を確保する。
- ・机とイスのサイズを合わせる（HR 教室以外では難しいことも多いが・・・）。
- ・相性を考えて座席やグルーピングする。
- ・（小学部では）教師の移動の銅線上に脅威室があると中赤落ちつかない。
- ・中学部/高等部ではスペース的にせまい
- ・活動場所と活動内容を統一させる。

## 2. 分かりやすい授業

- ・見本（具体物）や実物を見せる。
- ・視覚的な（パワーポイント）教材とプリントで実施。
- ・身振り、手振り、サインを用いて視覚的に分かりやすくする。
- ・タイマーを示して見通しを持たせる。
- ・初めに流れを子どもに知らせることで見通しを持たせる。
- ・iPad の写真で完成までの過程を見てわかるようにする。
- ・子どもの体力、実態にあわせて時間設定する。
- ・1つの説明、活動で区切りをつける
- ・パターン化（課題の順番 etc）
- ・子ども主体の時間を多く取り、読む、書く、発表するなど活動量を確保する
- ・遊びの中で学ぶ（順番待ちで座ることを覚えるなど）
- ・自分の時間だけでなく、友だちを見る時間を作る
- ・興味関心の持てる題材が重要

## 3. 伝わる教員の発信

- ・方言をひかえる
- ・丁寧な言葉遣い
- ・一度に指示を出しすぎない。
- ・言葉の量を減らし、必要な情報を伝わりやすくする
- ・名指して伝える
- ・ゆっくり話す/声の大きさ/端的に/非言語も交えて
- ・話す、伝えることの課題がある場合、話すのが難しかったら書いて伝える。

## 4. 協力できるチーム

- ・普段から授業について話し合う
- ・トラブルを起こす生徒の対応の仕方を決めておく
- ・絶対に付かないといけない生徒の把握
- ・実態差が大きい場合には、サブが子どもの個々の目標や課題を設定してあげる必要があるのでは。
- ・教員同士のコミュニケーションが大切。サブの教員の動きが重要。

# 公開授業研究協議を通して見る和泉支援 授業スタンダード 櫻田先生版

## 1. 安心できる教室環境

- ・木工では、たくさんの道具のうち、その日使う道具だけを机の上に置くようにしている。
- ・必要のない情報（黒板やホワイトボード）は隠すようにする。
- ・小学部では、子どもたちが興味あるものへパッと行ってしまうので、その危険のあるものはカーテンで隠している。子どもたちの成長に合わせてそれら（の隠すもの）を減らしていく。
- ・重度の子どもたちの授業では、タイムタイマーを置いて、授業のめどを感じやすくしている。
- ・重度の子どもたちのグループでは、手の届くところに気になるものは置かない。黒板は授業に関係あるものだけにする。基本的に（授業の）場所は変えない。
- ・黒板や机上はシンプルに。
- ・危ないものは毎日チェックし、必要に応じて施錠している。
- ・子どもの動線や見やすさを配慮している。
- ・具体的に机上にあるものを指示（なるべく少なく）
- ・保健室を怖がることなく、音も出るおもちゃなど安心できるものを用意している。
- ・中学部では、授業によっていろいろな教室を使う。授業担当者が使いやすいよう、自分の教室はモノを置かない、掲示物も減らす、生徒の机の中には何も入れないといったことを学年の中で共有している。
- ・小学部では児童が気になるものは必ずなおしている。
- ・生徒同士の間関係や、集中しやすい場所などを考えた座席配置をしている。
- ・TVなどを使う時は、（見えにくくならないよう）画面の下の方まで字を書かない。
- ・実態にあわせた環境整備をする。
- ・作業に必要なモノしか置かない。終わりが分かりやすい。单元ごとにモノを変える。
- ・今の授業の教材しか置かない。
- ・子どもが安心できる座席配置。

## 2. 分かりやすい授業

- ・木工では、試作品を作って分解し、一つひとつの部品に番号をつけている。その番号通りに組み立てていけるようにということを目指している。
- ・活動と活動の区切りをはっきりさせている。
- ・授業のはじめに予定とめあてを説明する。
- ・流れの説明のときに、字を読めない、聞けていない子のため絵や写真も使って説明するよう意識している。
- ・活動内容はホワイトボードで掲示している。
- ・授業の流れ、目標は映像で出すようにしている。
- ・授業の流れを必ず伝える。やるものを具体的に見せる。
- ・数学では、子ども同士で教えあう機会をもつ。教える子にとっても自信になる。
- ・重度の子たち 流れは基本的に同じ流れでおこなう。見通しをもちやすいように。振り返りは課題ごとに評価といっしょにおこなう。「ここをがんばることができた」のように。
- ・自分の姿が見えるよう、映像を撮って振り返る。
- ・実践しているところを動画で撮って、振り返っている。
- ・実物を見せる。
- ・冷えピタなどは、先に見せて触ってから貼る。
- ・その日の体調に合わせて時間配分を調整している。
- ・タブレットでキーノートを使った説明がはいりやすい。具体物を使うこともある。
- ・机に置くものを伝える。（今はタブレットと筆記用具を出すなど）
- ・クラスルームを使う。
- ・自信を持てる言葉がけ
- ・子どもの発達にあわせて支援を変える。
- ・前の授業から次の授業（の内容）を話しておく。
- ・ローの子どもたちには視覚支援を使う。
- ・授業の指示は簡潔に、話す長さは30秒以内になっている！

### 3. 伝わる教員の発信

- ・試作品を見せて、完成をイメージさせる。「完成したらうれしいで!一生懸命磨こう」と言葉がかけをしている。
- ・定規を使うのが難しい子もいるので段ボールで部品の形の型紙を用意している。
- ・支持の言葉を簡潔にしている。「今からやることは3つです。1つ目は～、2つ目は～」のように。
- ・わかりやすい教材(カード、写真)工夫してつくっている人が多い。絵本(おさるさん)を読んだら、「りんごをあそこにつけてみよう!」という感じで、大きい木やりんごを実際に作り、実演しているなど。
- ・視覚的にわかりやすい教材。割引シールを貼った商品を映したり、商品カードをつくったり、ピザで分数を表したり。焦ることなく生徒のペースで進められるように。ついていけない子がいれば、自活の時間に抽出したり、早い子はチャレンジ問題に取り組んだりなど。
- ・視覚的なところは大切にしています。分かりやすい授業と重なってくるが、子どもの興味のあるものを探り、提示していく。
- ・「ここで取り組ませたいこと」を1つ、2つにしぼる。
- ・声の大きさは、規模によってマイクを使用している。
- ・できたことはほめる。
- ・ゆっくり、端的に伝える。
- ・しゃべりすぎない。
- ・失敗を恐れる子にはポジティブな言葉がけをする。
- ・児童生徒の実態にあわせてスピードなどを調整して対応している。
- ・処置後は笑顔で心がけている。
- ・説明など注目させるときは、全員の顔が前を向いてから説明する。
- ・生徒が答えやすい簡単な質問に変える。
- ・カードや実物を使っている。
- ・子どもから出てきた言葉を大切にしている。

### 4. 協力できるチーム

- ・サブの先生は専門科とは限らないので、事前に使用する道具や試作品の現物を見てもらうようにしている。
- ・ついていけない生徒は、様子を見て把握し、できるだけ早く見つけてあげられるよう連携している。
- ・小学部では学年会で指導案の共有や打ち合わせ、シミュレーションをすることが多い。
- ・授業中にすること、してほしいこと、生徒情報を簡潔に伝えている。
- ・人が話を集中して聴けるのは30秒、なので30秒以内で情報共有する。
- ・ついていけない生徒は、できるだけ早く見つけてあげられるように様子を把握している。
- ・学年会で指導案の共有、打ち合わせ、シミュレーションをしている。

# 公開授業研究協議を通して見る和泉支援 授業スタンダード 廣田先生版

## 1. 安心できる教室環境

- ・子どもの実態を見据えた席の配置ができているか。
- ・子ども同士の関係によって座席配置をする。
- ・何もない教室が必ず安心できる環境とはないのかも・・・その集団によって、その子どもたちの実態によって違うのでは。スタンダードに書いてある内容は“集団に参加する”を目標にしている場合は良いと思う。年齢や実態にあわせるべき。「実態に応じた(その集団にあった)」という言葉が1つ目の文言にあった方がいい。
- ・大人も子どもも動きやすいが、(環境を整えすぎると)成長面に関しては・・・授業のためだけは難しい。
- ・音楽や美術では、活動のために適切な場所が必要。
- ・普段から学校生活でやっていることが安心につながるのでは。
- ・タイマー
- ・モニター(座席表含む)
- ・プロジェクター(万能に使える、授業も進めやすい)

## 2. 分かりやすい授業

- ・導入で目標とめあてを確認し、授業の中で振り返りにつなげていく。
- ・毎回というより单元ごとに振り返りをすることが評価につながる。
- ・体育で複数のチームに分かれて取り組むときには、ホワイトボードを使用してチームで考える時間を設定している。
- ・主体的に活動→計画してあるなら、トータルで考えて、毎時ある教科とない教科と、毎回のタイミングで、子どもたちもわかってくる、実技中心になりがち
- ・じっくり振り返り→やりたいことが多い、ノッてくるタイミングによって難しいことも、書いてかえすなどあっても良いか、重度さんは毎回拍手など
- ・生徒の実態にあわせた学習内容や目標を設定している。。

## 3. 伝わる教員の発信

- ・子どもたちに分かりやすい指示(声、言葉だけでなく発信)、動作など
- ・制作に時間をかけたいので説明は制作に向けたポイントに絞って手短にしている
- ・美術では段階を踏んで取り組んでいる。
- ・声の大きさ、スピード、タイミングは自分で判断するのは難しい。
- ・視覚的に分かりやすく伝えるための準備が大変。つくる工程をみせる、歌詞カードに絵などをける、危機によってできないこともある。物があればと思うが時間がかかる。

## 4. 協力できるチーム

- ・主担者は指導案やルール、ポイントなどを事前に確認しておく。
- ・サブは主担者がやりやすいように配慮し、考えて行動する。
- ・指導案が簡略化できれば。
- ・授業案を皆で考え、動線などの確認をする。
- ・現状サブが多い場合、指導案を出している。

9月21日(木)の公開授業並びに研究協議へのご協力ありがとうございました。

研究協議アンケートの結果については、11月職員会議にて報告します。

また授業スタンダードを通して、先生方がご自身の授業を振り返るきっかけに

なればと思い、野上先生、櫻田先生、高木先生、廣田先生の4名の先生方の

各研究協議の後半のワークとして取り組んだ、「**授業スタンダードの**

**視点から見る、参加された先生方が普段の授業で大切に**

**されていること**」を順次こちらに掲示していきたいと思えます。

よければご覧ください。



研究部より